

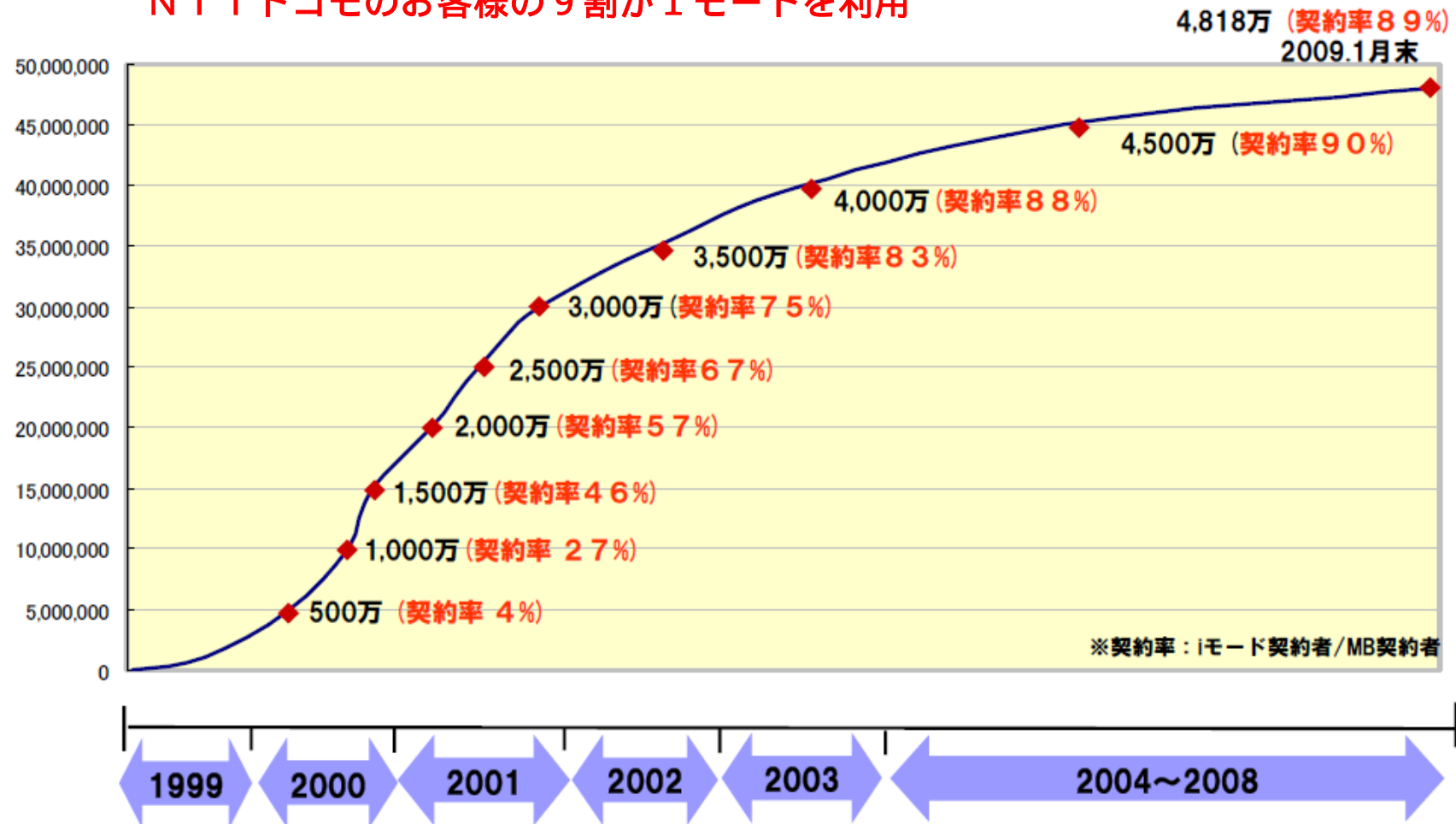
モバイル社会研究所のご紹介

2009年9月4日

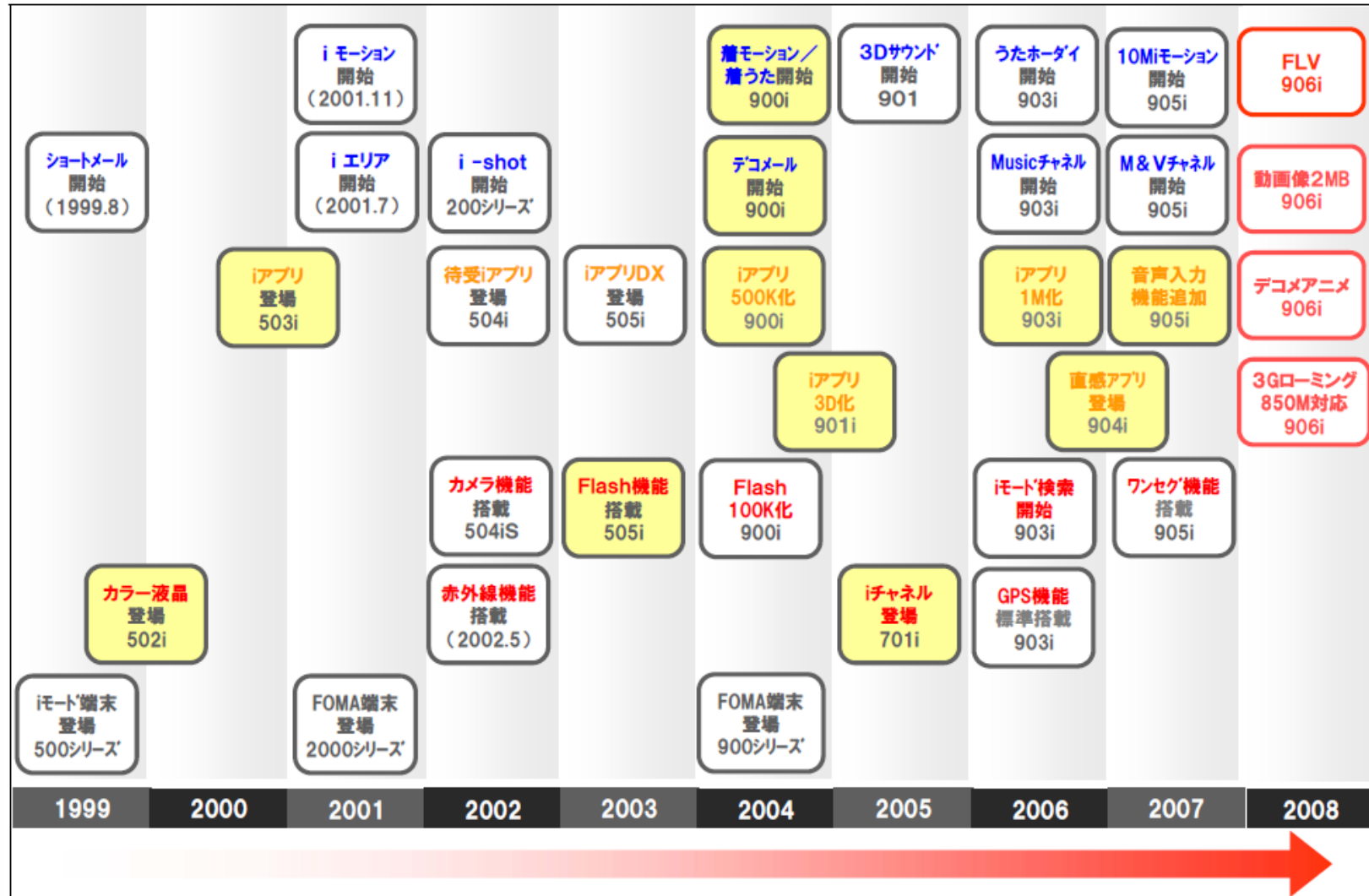
岩田 英敏

iモードの歴史

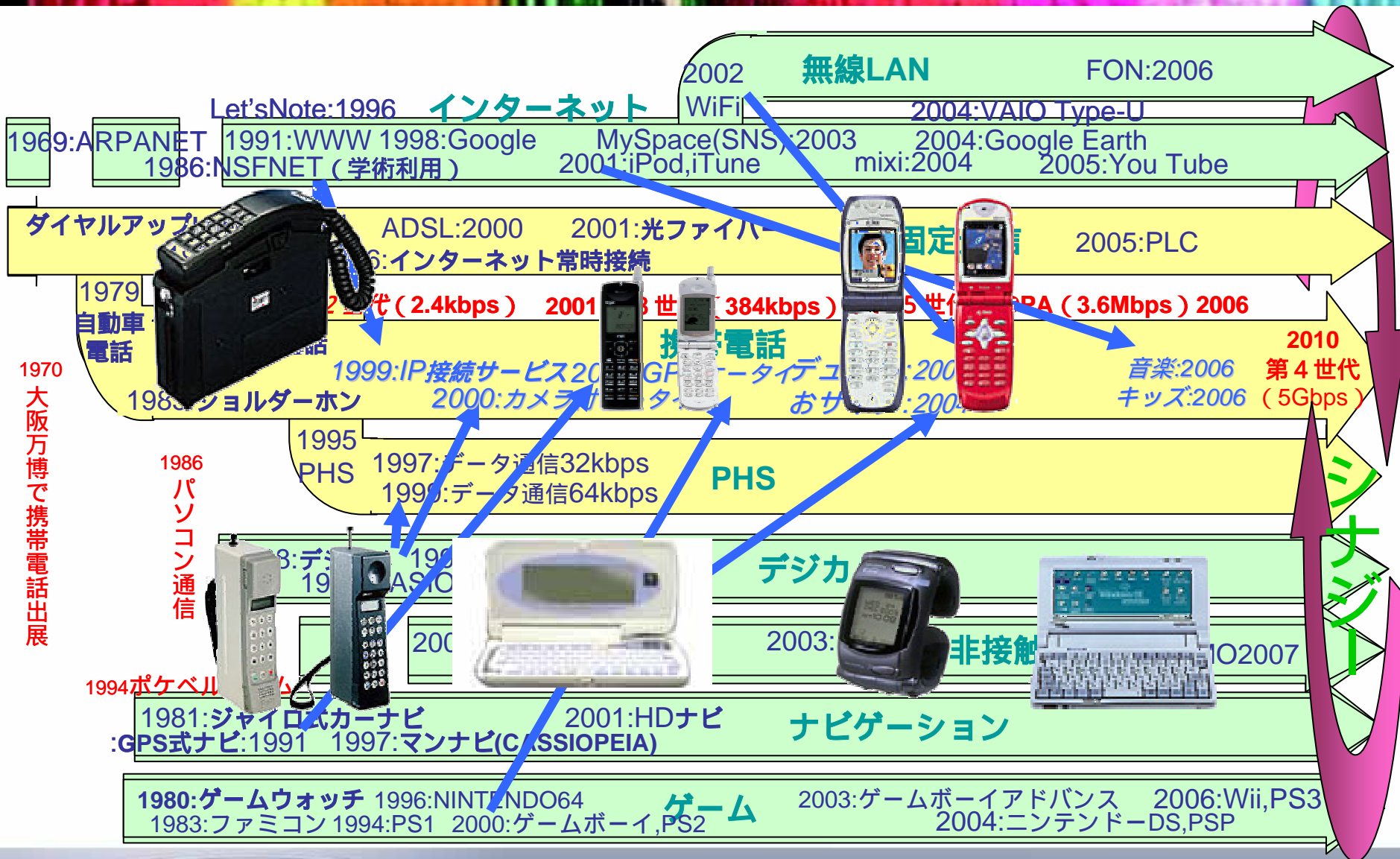
NTTドコモのお客様の9割がiモードを利用



ドコモのサービスの進化



ケータイの歴史



モバイル社会研究所の位置づけ

設立趣旨について

急速に社会に浸透した携帯電話の社会・文化的影響についての研究・分析の重要性

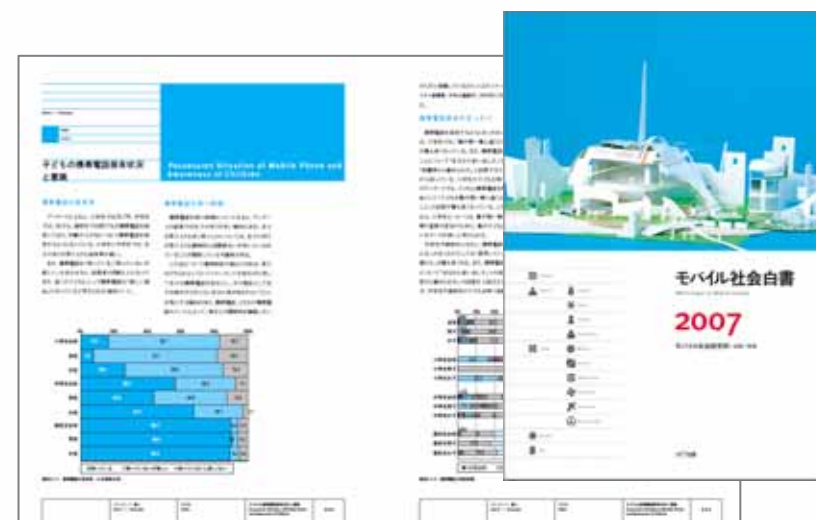
NTTドコモ、移動通信業界の利害を離れた、自由で独立した立場での調査・研究

携帯電話の普及がもたらす光と影、光の部分を大きく伸ばし、影の部分に適切な対策

社会とお客様への貢献

各分野における専門家が研究・分析

論文発表や出版、シンポジウム等を通じた
研究成果の発信



モバイル社会白書 2007

モバイル社会研究所とは

携帯電話の普及に伴って起こっている社会事象を、移動通信業界の利害を離れた立場から、社会科学の視点で調査研究を行っています。

年間十数本の調査研究プロジェクトを実施しています。



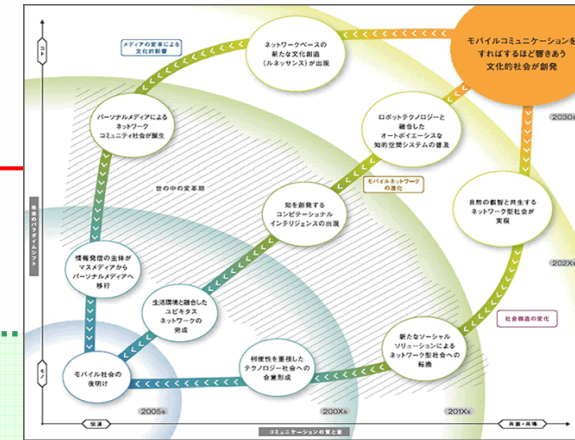
<http://www.moba-ken.jp/>

書籍「きみがつなぐみらい」

モバイル社会研究所の組織・体制

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所 (2004年4月設立)

東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー9F



モバイル社会2030ビジョン

【docomo】

社長 山田 隆持

「モバイル社会研究所」はドコモ本社内に設置された、社長直下の組織です

【モバ研】

所長 鮎戸 弘 (東洋女学院大学学長 / 東京大学名誉教授)

副所長

スタッフ

委託研究
共同研究
自主研究

研究活動

- 子どもとケータイ
- ケータイと障害者
- ライフログ
- ケータイと環境
- 災害とモバイル通信
- モバイルバリュー

研究テーマ選定へのアドバイス
研究進捗状況へのアドバイス

【理事会組織】

- 理事長(所長) 鮎戸 弘
- 理事 徳田 英幸 慶應義塾大学 教授
- 野原 佐和子 株式会社イプシ・マーケティング研究所 代表
- 関根 千佳 株式会社ユーディット 代表
- 坪田 知己 日経新聞社メディアラボ 所長

研究所が、その活動を円滑、効率的に推進し、社会に対して有意義な貢献ができるよう、活動全般に関して議論し、適切な助言、指導等を行う組織。

【社外研究機関】

モバイル社会研究所では、国内外の研究者と協力しながら調査・研究活動を展開し、様々な提言や問題提起を行っていきます。

共同研究活動



書籍「ハイブリッド・コミュニティ」
～情報と社会と関係を
ケータイする時代に～

著者 遊橋裕泰、河井孝仁他
企画 モバイル社会研究所
出版社 日本経済評論社
出版時期 2007年3月

東海大学文学部 知のコスモス

シンポジウム メディアは地域を 変えられるのか

2009年度 第1回地域メディア研究会

■日 時: 2009年9月4日(金)
9:50開場 10:20～16:30

■会 場: 東海大学湘南キャンパス
8号館401教室

■参加費: 無料

■協 賛: NTTドコモ モバイル社会研究所

時間	内容
10:30-10:35	開会挨拶
10:35-11:00	河井孝仁(NTTドコモ) 「しなやかな地域活性化をめざして」
11:00-11:25	河井孝仁(NTTドコモ) 「魔法の杖はない —地域メディアは地域を活性化できるのか」
11:25-11:30	休憩
11:30-11:55	河井孝仁(NTTドコモ) 河井孝仁(NTTドコモ) 河井孝仁(NTTドコモ) 河井孝仁(NTTドコモ) 河井孝仁(NTTドコモ) 河井孝仁(NTTドコモ)
11:55-12:20	河井孝仁(NTTドコモ) 「数店舗は地域メディアの夢を見るか —地域メディアは「売上」を創れるか」
12:20	閉会挨拶

申し込み先 ☎ 事務局の担当は、こちらで所属を指定ください。A～SのFAX番号は、お申し込み先とさせていただきます。 ☎ メール: tk.kawai@nifty.com ☎ FAX: 020-4669-3200



書籍「地域メディアが地域を変える」

著者 河井孝仁、遊橋裕泰他
企画 モバイル社会研究所
出版社 日本経済評論社
出版時期 2009年4月

子どもとケータイ (教材「みんなのケータイ2」)

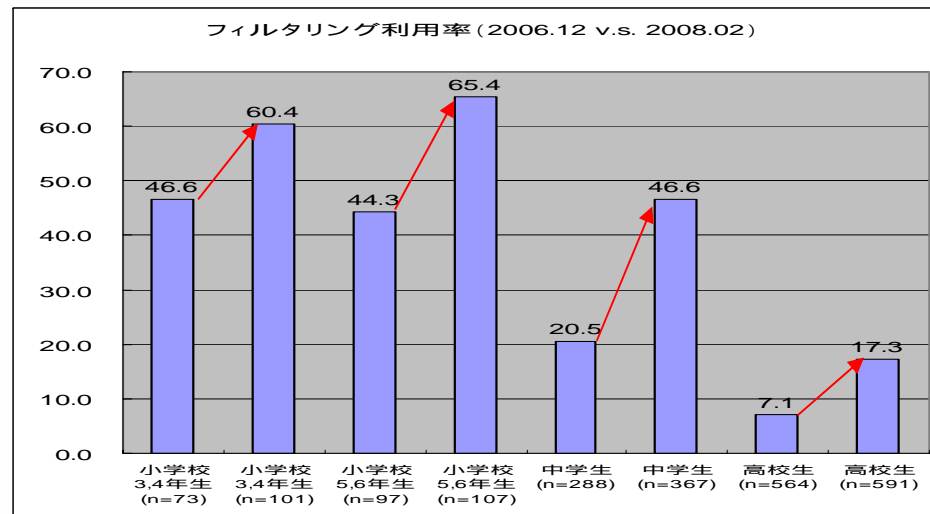
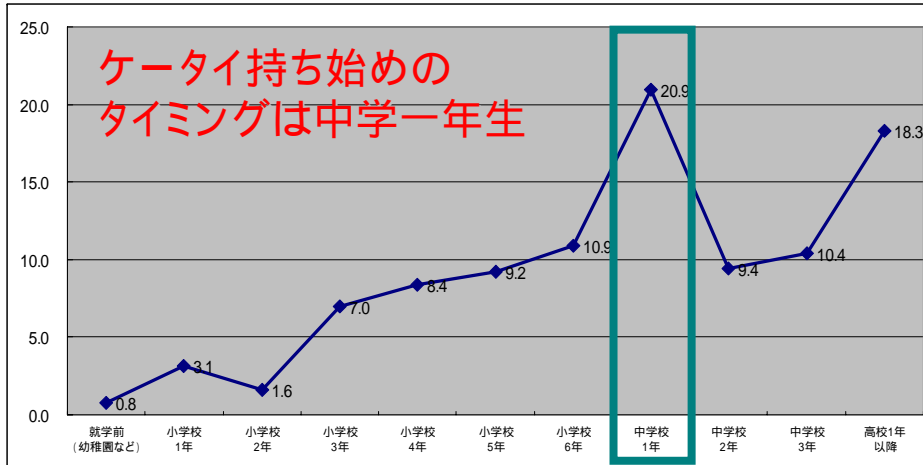
子どもとモバイルマルチメディア研究 - 教材「みんなのケータイ2」 -

小学校高学年から高校生までを対象とした携帯電話の利用マナーを学ぶための教材(テキスト)です。安全な使い方を学ぶ授業の副読本としてご活用いただけます。



教材「みんなのケータイ2」は、モバイル社会研究所ウェブサイトからダウンロードが可能です。 <http://www.moba-ken.jp/>

子どもとケータイ (書籍「子どもとケータイ」)



<http://www.moba-ken.jp/about/books-review/kodomotokeitai>

書籍「子どもとケータイ」
～ Q & Aで学ぶ正しいつきあい方～

著者 遊橋裕泰、宮島理他
監修 モバイル社会研究所
出版社 リックテレコム
出版時期 2008年7月

子どものケータイ利用 (MOBILE WORLD CONGRESS)

モバイルワールド कांग्रेसにおける調査研究発表

「子どもの携帯保有とその影響～五カ国比較調査～

(Children's Use of Mobile Phones - An International Comparison)」

GSMA (GSM Association) : 携帯通信事業者の業界団体

MOBILE WORLD CONGRESS : 携帯電話の展示会

子どものケータイ利用に関する国際比較調査。対象国は日本、韓国、中国、インド、メキシコの5ヶ国。合計約6000組の10～18才の子どもとその保護者のペアにアンケート調査を実施した。調査結果としては、ケータイ保有の動機付けの主要因の筆頭に、子どもの年齢、ネットワーク効果が挙げられることが、全ての対象国において確認できた。子どもの性別、親の年齢、親の収入、パソコンやテレビゲームの保有の有無もまた、子どものケータイ保有に影響を与えていた。



調査研究報告をする向田愛子研究員

- ・ 期 間 : 2009年2月16日～19日
- ・ 会 場 : スペイン バルセロナ Fira de Barcelona
- ・ 来場者数 : 47,000人
- ・ 出展社数 : 1,286社 (世界のオペレーター、メーカー)
- ・ トップカンファレンスセッション
“Segmentation is a Step, Individualism is the Goal” 2月18日
テーマ “Children and Mobile Phone”
モバイル社会研究所の紹介
日本におけるケータイを取り巻く社会的なトレンド
NTTドコモの子どもとケータイに関する取組みの紹介
- ・ セミナー “Children's Use of Mobile Phones Seminar” 2月19日
GSMAとの共同調査の成果発表



モバイルバリュー・ビジネス

台頭する新しい交換価値について、
その仕組みと未来を、経済・技術・法律・社会の観点から検証する

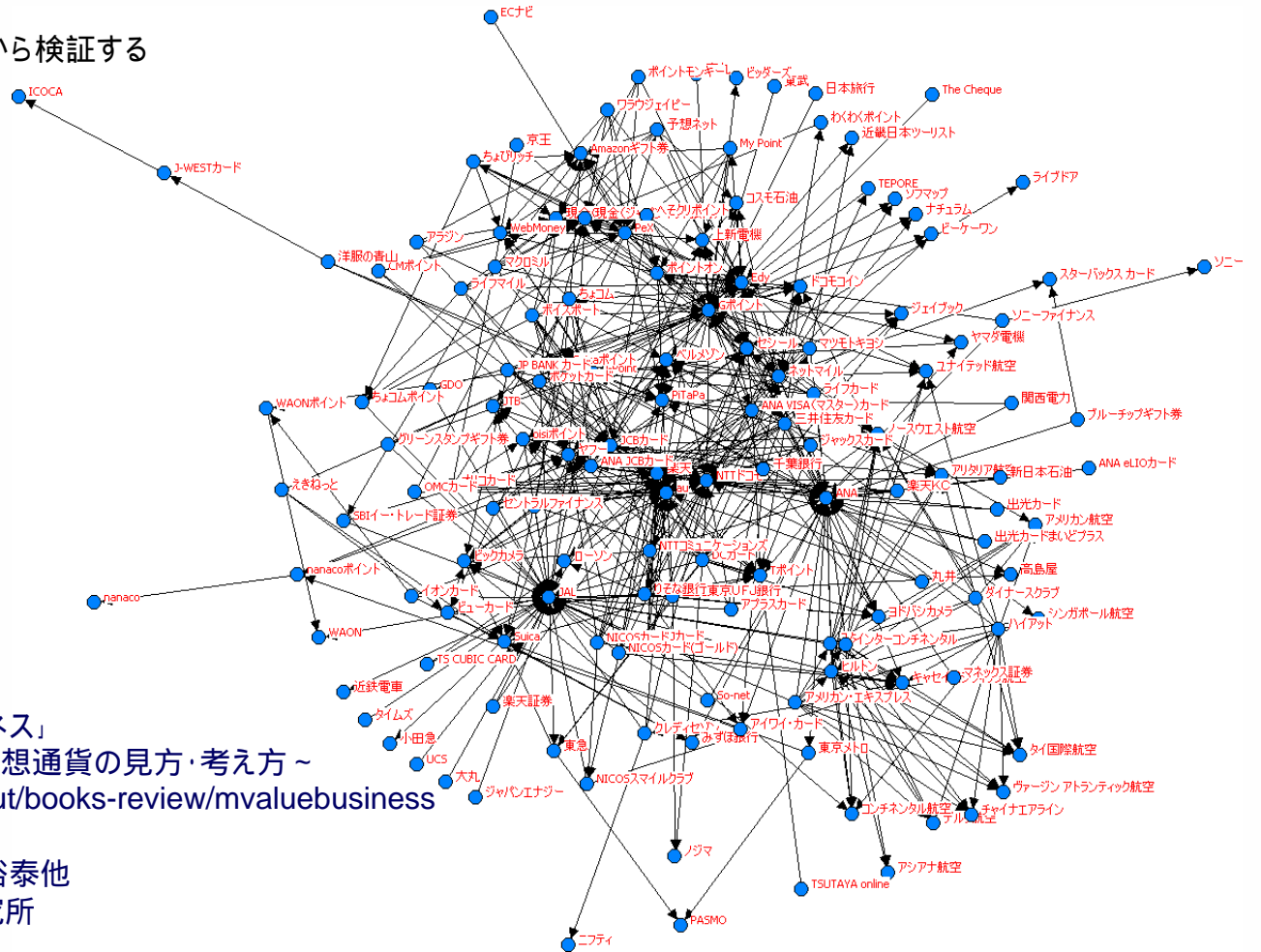


モバイルバリューシンポジウム 2008.9



書籍「モバイルバリュー・ビジネス」
～電子マネー・企業ポイント・仮想通貨の見方・考え方～
<http://www.moba-ken.jp/about/books-review/mvaluebusiness>

著者 杉浦宣彦、遊橋裕泰他
 編者 モバイル社会研究所
 出版社 中央経済社
 出版時期 2008年10月



主催シンポジウム (モバイル社会シンポジウム2009)

タイトル : モバイル社会シンポジウム2009
 ~ モバイル社会の現代を考える ~

日時 : 2009年3月3日(火) 10:00 ~ 17:00
 概要 : モバイル社会研究の調査研究発表
 場所 : スパイラルホール / 東京青山
 参加人数 : 約150名



内閣府 内藤参事官補佐



午前 モバイル社会研究所 調査研究報告

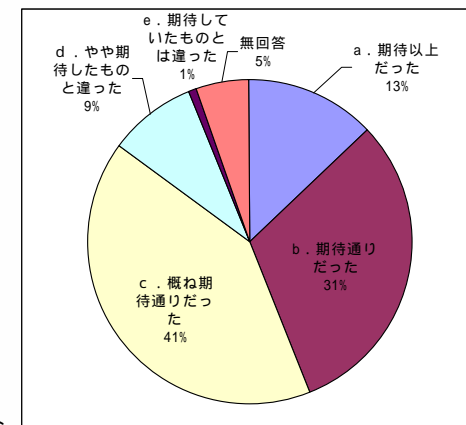
- (1)グローバル化する循環型社会を見据えた携帯端末リサイクルシステムの在り方 東京大学 村上進亮先生
- (2)四川大地震と携帯電話 東洋大学 中村功先生
- (3)モバイルデジタル文化 慶應義塾大学 岡部大介先生

午後 子どもとモバイル社会

- (1)基調講演 国際化するモバイル社会の健全な発展 GSMA Natasha Jackson
- (2)モバイルインターネットとの環境の法整備状況と展望 内閣府 内藤新一 参事官補佐
- (3)国際比較 ~ 子どものケータイ利用事情分析 ~ 慶應義塾大学 田中辰雄先生
モバイル社会研究所 向田愛子

(4)パネルセッション 次代に向けた課題解決のメディア設計

パネリスト GSMA Belinda Exelby
 NTTレゾナント 藤代裕之(ジャーナリスト)
 内閣府 内藤新一 参事官補佐
 慶應義塾大学 田中辰雄 先生
 モバイル社会研究所 向田愛子
 コーディネーター モバイル社会研究所 遊橋裕泰



来場者アンケート

Q: 本日のシンポジウムはご期待にお応えできる内容でしたか?



ご清聴ありがとうございました

